



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>			
建物名称	(仮称)シェイドレーシング ガレージ新築工事	BEE	0.8
		BEEランク	B-
			★★

2. 重点項目への取組み度			
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2 /5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8 /5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.9 /5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.6 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4点以上	ふつつ 3点以上
			がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点	<b>3.2</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④給水:B、汚水・雑排水:B、消火:C</li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし</li> <li>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPIm=0.77</li> <li>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫躯体+LGS+仕上材</li> <li>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物に対して92%以下</li> </ul>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制	
	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒	
LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点	<b>2.8</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし</li> </ul>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点	<b>2.9</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲1階階高=4.2m ⑲2壁長さ比率=0.18</li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑲1地域性・アメニティへの配慮) 特になし</li> </ul>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ	
	Q-3 3 3.1 ⑲	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点	<b>2.6</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑲1生物環境の保全と創出/⑲2まちなみ・景観への配慮/⑲3敷地内温熱環境の向上) 特になし</li> <li>■敷地外環境対策 (⑲4持続可能な森林から産出された木材/⑲5温熱環境悪化の改善) 特になし</li> </ul>	Q-3 1 2 3 3.2	⑲1 生物環境の保全と創出 ⑲2 まちなみ景観への配慮 ⑲3 敷地内温熱環境の向上	
	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑲4 持続可能な森林から産出された木材 ⑲5 温熱環境悪化の改善	

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)シェイドレーシング ガレージ新築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県駿東郡小山町大神宇小玉沢111-4 他	構造	S造
用途地域	用途地域・防火地域共に指定なし	平均居住人員	199 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,500 時間/年(想定値)
建物用途	集会所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2022年7月1日
敷地面積	31,949.11 m <sup>2</sup>	作成者	石川 一郎
建築面積	1,812.83 m <sup>2</sup>	確認日	2022年7月6日
延床面積	2,664.89 m <sup>2</sup>	確認者	幸 克洋



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

①参照値 100%  
②建築物の取組み 92%  
③上記+②以外の 92%  
④上記+ 92%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目目で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	その他 特になし。	
Q1 室内環境 建物内禁煙とすることで空気質環境の向上に努めている。	Q2 サービス性能 階高のゆとりや空間の形状・自由さに配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 効果的に植栽を配置し、暑熱環境を緩和している。
LR1 エネルギー 建物外皮の熱負荷抑制し、冷暖房機器の使用エネルギー量を削減している。	LR2 資源・マテリアル 標準的な計画としている。	LR3 敷地外環境 大気汚染防止や光害の抑制に努め、敷地外の環境負荷の低減に取組んでいる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される